

急性胆嚢炎について

今回は副院長で日本消化器外科学会指導医
井口利仁医師に「急性胆嚢炎」について伺
いました。



▲井口 利仁 医師

します。中年の方に多
くみられますが、どなた
でも起こりうる身近な病
気です。

主な症状としては、右
上腹部やみぞおちに強い
痛み、吐き気、発熱など
がみられます。いずれも
胆嚢炎だけに見られる症
状ではないため、「胃が
痛いのかな」と思っ
て放置してしまう方も少
ありません。しかし、炎
症が進むと重症化し、入
院や手術が必要になるこ
ともありますので、早
めの受診がとても大切で
す。

診断には、血液検査に
加え、腹部エコー検査や

C T検査、M R I検査を
行います。エコーは体へ
の負担が少なく、胆石の
有無や胆嚢の腫れを確認
するのに役立ち、まず行
うべき検査です。初期治
療としては抗菌薬を投与
し、早期に（腹腔鏡下）
胆嚢摘出術を行うことを
考えます。炎症が重症で
あったり、持病などで全
身状態が手術に適さない
場合には抗菌薬の投与を
続け、効果が不十分なら
胆嚢ドレナージ（胆嚢内
に管を入れて胆汁を外に
出すこと）を行います。

最近では日本人の約1
割の方が胆石を持ってい
ると推定され、症状のな

い胆石保有者が何らかの
症状を呈し、胆嚢摘出術
を必要とする可能性は概
ね2割〜4割と言われて
います。胆石が指摘され
ており、右上腹部の痛み
が続いたり、食後に強い
腹痛が起こる——こうし
た症状があれば、我慢せ
ず医療機関にご相談くだ
さい。



社会福祉法人

恩賜財団

済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1-6

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp>

0898-47-2500

